

メッセージ 4

主の回復の三つの面(2)

神・人の生活

聖書：ピリピ 1:19-21 前半・3:10・ガラテヤ 2:20・ヘブル 6:19-20・13:13・出 33:11 前半

・神は、わたしたちが神・人となり、神・人の生活をするを願っています。神・人の生活とは、神と人が一人のパーソンとして共に生きることです　ピリピ 1:19-21 前半・ガラテヤ 2:20：

A．主の回復は、このような神・人の生活を回復することです。

B．わたしたちは主に新しい復興を求める必要があります(ハバクク 3:2 前半)。この復興は神・人の生活です：

1．これは完全な威厳のある生活であって、最高水準の人性の美德を伴い、最も卓越した神聖な特質(属性)を表現します　ピリピ 1:20。

2．これは、神聖をもって豊かにされた人性の中で、イエスが地上で再び生きた生活です　ペテロ 2:21。

3．これは、すばらしい、卓越した、奥義的な神・人の生活です。彼は福音書において生き、彼のからだの多くの肢体を通して継続して生きています　ガラテヤ 6:17。

4．これは、受肉し、十字架につけられ、復活させられ、神によって高く上げられたキリストの生ける証しとなる生活です　使徒 1:8・ピリピ 1:20-21。

・神・人の生活は、再生によって神・人となった信者たちが、彼らの古い人の命によってではなく、彼らの新しい人の神聖な命によって生かし出す生活です　ローマ 6:4-6・エペソ 4:22-24。

・神・人の生活は、キリストの復活の力によってキリストの死に同形化されつつある生活であり、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によってキリストを生き、キリストを大きく表現する生活です　ピリピ 3:10・1:19-21。

・神・人の生活は、自己、肉、肉にかかわるもの、すなわち罪、サタン、この世に打ち勝つ生活です　マタイ 16:24・ガラテヤ 5:24・ローマ 8:3・ヘブル 2:14・ヨハネ 12:31。

・神・人の生活は、宗教、文化、この時代の潮流と娯楽に打ち勝つ生活です　ガラテヤ 1:4・ローマ 12:2。

・神・人の生活は、キリストの支配する命によって王として支配し、神に反対するすべての人、事、物を征服し、この時代に主の勝利者となる生活です　ローマ 5:17, 21・啓第2章 第3章。

・神・人の生活は、幕の内側に入り、営所の外に出る生活です　ヘブル 6:19-20・13:13：

A．幕の内側に入るとは、主が栄光の中で御座に着いている至聖所の中に入ることを意味します。営所の外に出るとは、主が拒絶されて追い出された宗教から出て来ることを意味します。

B．わたしたちは霊(経験的に言って、今日、実際的な至聖所がある所)の中におり、宗教(今日、実際的な営所がある所)の外にいなければなりません：

1．わたしたちは霊の中にいて天のキリストを享受すればするほど、ますます宗教の

営所の外に出て、苦難を受けたキリストに従います。

2. わたしたちは、霊の中にとどまって、栄光の中にいます天のキリストに触れれば触れるほど、ますます宗教の営所の外に出て、低くなったイエスに行き、彼と共に苦難を受けます。
 3. 真の新約の務めはわたしたちを霊の中、幕の内側のキリストの享受の中にもたらし、わたしたちを強めて営所の外でイエスに従わせ、彼のからだのために彼の苦難の交わりにあずかせます コリント 11:2-3, 23-33 :
 - a. わたしたちは幕の内側で、天のキリストの務めにあずかり、装備されて、営所の外で渴いている霊を持っている人にキリストを供給します 参照、使徒 6:4。
 - b. わたしたちは幕の内側に入り、営所の外に出ることによって、あらゆる良いわざをもって装備され、神のみこころを行ないます。神はご自身の目に喜ばれることを、わたしたちの中で行なう方です ヘブル 13:20-21。
 - c. 幕の内側にいるとは至聖所の中にいることです。そこは、わたしたちがキリストにあずかり、彼を隠されたマナ、芽を出した杖、命の法則として享受する領域です。その結果、わたしたちは団体の表現となり、神の永遠のご計画を完成します 9:3-4。
- C. モーセが自分の天幕を取り除いて偶像礼拝の営所から分離した後、人が自分の仲間と語るように、主は顔と顔を合わせてモーセと語りました 出 33:11 前半 :
1. 神とモーセは仲間、同僚、パートナーであって、同じ仕事にかかわり、大きな事業の中で共通の權益を持ちました。
 2. モーセは神と親密であったので、神の心を知り、神の心にしがっており、神の心に触れることができる人でした。
 3. わたしたちは幕の内側に入り、偶像礼拝の営所の外に出て、主との最も近い、最も親密な関係を持つ必要があります。それは、わたしたちが、神と共通の權益にあずかり、神に用いられて、地上で彼の事業を遂行する人になることができるためです。